

4年後の経営情勢 —2010年代初期の仮説—

内 容 I. 4年後の経営情勢—2010年代の仮説
II. 近未来判断アンケートの結果発表
III. 現在行動のプラスとマイナス。何を生かすか

■日時 2007年7月5日(木) 13:00~16:00
■会場 ホテルグランドパレス「芙蓉の間」
■講師 ㈱現代経営技術研究所
所長 鈴木 成裕 主任研究員 大塚 壽広

スケジュール概要

I. 4年後の経営情勢—2010年代問題

現研所長 鈴木成裕……………13:00~

日米投資イニシアチブからの影響、中国の経済調整の判断、アジア圏の急激な変化、日本の消費の変化など、見通しの設定、構想の立案などの前提となる直接事項についてお話し、おおよそ下記の順で2010年から2015年までの仮説について講師意見を述べます。

1. 大トレンド転換の進行
2. 経営統合・買収等と産業構造変化
3. 配布資料に列記する経営に関する各項目の解説
4. 期待される社員像

2010年から2015年までの将来構想をする方々にぜひ検討してほしい事柄については、多分参加者の方に賛否があると思われますので、3時15分からの部でこれについて意見交換をいたします。

II. 近未来判断アンケートの結果発表

現研主任研究員 大塚 壽広……………14:15~

今回重視する事項です。各位の貴重なご回答にはそれぞれ根拠がありますが、全体をまとめてみるといろいろな立場から、オヤツと思われる事項がかなりあるはずです。これは未来志向の上で重要な手がかりです。今回は限られたアンケート項目ですが、それぞれ意味があります。現研担当者の見解を含めて報告いたします。

* 休憩・名刺交換……………(15分)

III. 現在行動のプラスとマイナス

何を生かすか—意見交換……………15:15~

この時間まで短時間で行ったため、偏りや説明不足が生じます。コーヒーを飲みながらご検討いただきますが、現在の経営がとるべき現実的な政策を含めて、できるだけ自由な意見交換をしたいと思います。

講師のことば

まもなく、相当の覚悟を持って、意思決定をしなければならない局面がやってくると思っています。そして、本当の転機が、明確になるのは、多分2010年から2015年あたりでありましょう。今、われわれは、グローバル化にしる、組織競争力の強化にしる、思い切った仮説のもとに行なう必要があります。

今回は総合研・公開セミナーですので、ややマクロ的な、そして広い視点で、構想を立案する方々に、経営や人事やビジネスシステムについて、私の考え方を提示します。現在の激しい現実的取り組みの成果を連続させるのに役立つことを願っています。

相当に困難な事態となりましょうが、今からの準備はきわめて有効。自社の発展に貢献すると思います。

そして、今回は多くの方々のご協力を得たアンケートの結果発表を併せて行ないます。

講師紹介



鈴木 成裕(すずきしげひろ)

㈱現代経営技術研究所所長。経営政策、システム開発、教育指導を中心に企業・団体の経営コンサルティングに携わる。『ビジネス・戦略問題を追求。著書として『システムの時代』(ダイヤモンド社)『経営転換の構想』(同文館出版)『戦略教育』(マネジメント社)『企業意思のリデザイン』(講談社)『経営構想の策定と実現』(産能大学出版部)『構想力の育て方』(プレジデント社)他 多数。



大塚 壽広(おおつかとしひろ)

㈱現代経営技術研究所主任研究員。金融システムのグローバルな動向の調査・分析を通じ、企業の財務戦略の視点に立って事業評価、企業評価を中心とする上場企業、中堅企業のプロジェクを指導。また、簿記・会計システムの基礎知識から事業戦略への活用に至る広域な実践教育・研修の経験も豊富。